

当事者の希望に伴走するためのメタバースを活用したPX(Patient eXperience)体験デザイン

- 静岡大 石川研究室・株式会社アルファコードのコラボで加賀市において実証実験を開始
 - 言葉で知っていても認知症の方の体験を理解することが難しく共感的な対応に課題
 - 実践で理解していくためには時間を要する
 - ケアの達人と若手の差が開き、会話も噛み合わない
(地方では教育を提供する余裕も十分でない)
- メタバースを活用することで、効率的・効果的な実践的学びの環境を構築



多様な認知症の方の多様な症状



参考：認知症ナレッジライブラリー

「理論と実践」という分断を「実践の中で理論」を深めるといふ新しい場の創造へ

- 当事者の声に基づく視覚や聴覚特性をメタバース上で再現
 - スープの上に虫、顔に見える、距離感が掴めない、アラーム幻聴
- 参加者の声
 - あんな風にしっかり見えているとすると(スープの上に虫)、やっぱり食べられないですね
 - あの方は実はこういう見え方をしているから、そういう行動をするのかも
 - 言葉では知っていてもVRで体験することはこれまでなかったので人材育成にもつながる

